



学生が考える！

Vol. 9



問合先 企画課 企画担当

都留市の企業×SDGsの未来

地域の未来を農業と観光から発展させる伴走者

SDGsに取り組んでいる市内企業を都留文科大学生が実際に訪問・取材し、皆さんに紹介！最終回となる第9弾は「道の駅つる」を運営し、農業活性化と市の観光の玄関口の役割を担う、(株)せんねんの里つるに学生が迫ります。



1 持続可能な農業経営を支える

せんねんの里つるは、道の駅つるを運営しています。地元の生産者の農産物を販売するだけでなく、保存性・付加価値を高める農産物の加工方法の助言や、生産者が主役となる販売会を開催し消費者との交流を促すことで生産意欲の向上や固定客が生まれるきっかけ作りなど、生産者の所得向上と持続的な農業経営につながるような伴走支援を行っています。

生産者の協力を得て、売れ残った野菜を子ども食堂や高齢者福祉施設に寄付するフードロス活動も行い、農産物を無駄にしない仕組みづくりにも取り組んでいます。

売れ筋商品や来場者のニーズを生産者へ伝え、作付け品目や出荷時期の調整の参考にしよう。▶



2 防災拠点としての役割



道の駅つるは災害時に防災拠点となるよう、設備が充実しています。防災用品を備蓄した防災倉庫や、災害時に炊き出しに活用できる「かまどベンチ」、断水時でも使用できる「マンホールトイレ」などが整備されています。また、大規模災害発生時には、自衛隊による救助活動の拠点や、帰宅が困難な利用者を一時的に受け入れる施設の役割も担っており、災害に強い持続可能な地域づくりに貢献しています。

◀芝生広場の一角にある2つのベンチは、災害時に蓋を外し「かまど」として使うことができる。

3 観光の玄関口として連携した取り組み

道の駅つるには地元住民だけでなく、県内外の多くの観光客が訪れます。令和7年度から県の「フラッグシップ道の駅」として選定され、今後は県東部地域の観光資源や地域の魅力を発信し、観光客誘致に貢献する拠点としての役割が期待されています。地元飲食店や宿泊施設、観光協会なども連携し、観光を軸として地域経済の活性化や雇用創出に取り組んでいます。

レストラン「お勝手場」では地元野菜や山梨県オリジナルのブランド魚「富士の介」を味わうことができる。▶



学生からの一言

生産者さんに寄り添った生産者さんの利益向上を考えた取り組みは、今後の地域の農業を見据えた持続的なものだと思います。東日本大震災の復興支援で都留文科大学の卒業生と連携し宮城県産の牡蠣を販売したのをきっかけに、各地の文大卒業生と協力してイベント時に全国の名産品を販売されているそうです。「今後は学生のアイデアを取り入れた新商品やメニュー開発も検討していきたい」とおっしゃってくださり、学生の力に期待していただけて嬉しかったです。

取材者：都留文科大学 渡辺 さやか、平松 敬汰郎

(株)せんねんの里つるのSDGsのポイント



8. 働きがいも経済成長も

農業と観光をつなぎ、持続可能な農業経営に貢献



11. 住み続けられるまちづくりを

災害時も地域を守る防災拠点としての役割



12. つくる責任、つかう責任

フードロスをなくし、旬の恵みを無駄にしない

都留市ではSDGs宣言事業所を募集しています。

「都留市SDGs宣言事業について」市HP▶

取材協力：地域活性化企業人

宮川 清希 (株)ニコン日総プライム



取材先：(株)せんねんの里つる
(都留市大原88番地)

駅長 小俣 拓也

(株)せんねんの里つるのHPはこちら▶

